

## 第5学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年 〇月〇日 (水)

第 〇 校時

場所 5 年 〇 組 教室

在籍児童 〇 〇 名

授業者 〇〇〇 〇〇

- 1 主題名 くじけない心 内容項目A[希望と勇気、努力と強い意志]
- 2 ねらい 困難を乗り越えた人の生き方を通して、自分も目標をもって、粘り強く努力しようとする意欲を高める。

教材名 「ライバルは自分自身」(出典:「みんなの道徳」5年 学研教育みらい)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

高学年の内容項目A[希望と勇気、努力と強い意志]には「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」とある。この項目は、中学校の内容項目A[希望と勇気、克己と強い意志]、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」につながっていく。

高学年になると、先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、その生き方への憧れや自分の夢への希望が膨らみ、高い理想を追い求めるようになる。その一方で自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。しかし、これからの人生を豊かなものにしていくためには、一人の人間として自立し、目標達成のために粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。生きていれば、誰もが困難や失敗に直面する時が来る。それを乗り越えていくために必要な人間の心の強さについて考えることで自分も挑戦しようとする意欲を高めていくことが大切であると考えられる。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、運動会や音楽会といった行事を通して、目標に向かって努力することの大切さを学んできた。5年生の道徳科の学習では、「世界に羽ばたく「航平ノート」」、「植物とともに 牧野富太郎」、「日本の「まんがの神様」」などの教材で、内容項目は違うが、偉人、著名人の生き方について触れ、初めから順風満帆な人生はないということを感じている。また、月の学校共通の目標とは別に、毎日クラスで児童が今日の目標を決め、帰りの会で自己評価をしている。さらに、2学期からは個人目標も2週に1回のペースで自己評価を行い、達成できていれば更新していく仕組みを取ることで、常に目標を持ってそれに向かう気持ちを育てている。

普段の生活の中での児童の実態としては、素直で子どもらしい部分と、自分を開示するこ

とへの抵抗がある部分が入り混じっている状態である。自己肯定感が低い児童も多く、周りの目を気にしたり、失敗を恐れたりする様子もよく見られる。事前のアンケートでは、「自分は粘り強い方だと思いますか。諦めやすい方だと思いますか。」という質問に対して、粘り強い方10人、諦めやすい方9人、分からない2人という結果であった。諦めやすいと答えた理由としては、「失敗したくない」「頑張っても結果がどうなるかわからない」「面倒くさくなってしまう」といった意見が見られた。

このような学級の様子を踏まえて、児童が前向きに自分の夢や目標に取り組んでいこうとする意欲を育てていく。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、幾度の困難にも負けず「最強のライバルは自分自身である」として、目標に向かって努力する主人公の姿を通して、ねらいとする道徳的価値に迫るものである。教員になりたいという夢をもちながら、夢の途中で目が不自由になってしまった浦田さんが失意のどん底から立ち上がり、困難を乗り越え、自分自身と向き合いながら努力を重ねることで新たな夢へ向かっていく姿は、児童の心を打つことであろう。本教材を通して、自分たちも高い目標をもち、困難に直面してもくじけずに努力し続けようとする意欲を高めるために、学級の実態を受け、くじけそうになる心に十分共感させた後、努力を続けていくことへの心の葛藤や金メダルをとったときの思いなどに話し合いを通して迫っていく。視点は以下の通りである。

#### ①浦田さんが視力と共に夢も失ってしまった場面での思い

この場面では、浦田さんに自我関与することで、想像もできないような悲しみや絶望に十分共感させるようにする。ここでしっかりと浦田さんの深い悲しみを考えることは、その後の展開の中で、浦田さんの強さの根源について考える中でとても重要になってくる。

#### ②様々な困難に直面しながら練習を続ける場面での思い

この場面では、辛い練習の中で湧き出したであろうプラスの思考とマイナスの思考に目を向けさせていく。誰でも楽に達成できる目標はなく、その道が辛ければ辛いほどあきらめようとする思いも出てくる。本学級の児童はこの時点で諦めてしまうことが多いが、その中で少し顔を出す「あきらめたくない自分」に浦田さんを通して気づくことで、その後の展開で自分を支える自分自身の強い思いにつなげていく。

#### ③金メダルを獲った浦田さんを支えたものは何か

この場面では、浦田さんを支えたものについて多角的・多面的に見ていく。「支えたもの」というと家族や友人といった他者の理解や愛情がまず思い浮かぶことが考えられるが、オリンピックという世界の舞台に立つには、最終的には自分の強い意志や覚悟、努力がなければ不可能なことであることを考えることで、自分の目標に向かう気持ちを維持するためには自分自身の心が支えになるということに気づいてもらいたい。ここでの気づきが自己を見つめた際に、自分の心に問いかけるきっかけになってくれればと考える。

以上の理由から、本主題を設定した。

## 4 研究主題との関わり

今回の研究主題「多様な他者との関わりを通して自己を見つめ、自分の生き方について考えを深められる道徳科の授業づくり」を踏まえて、以下の活動を取り入れることで検証を行う。

### ①体験型の学習

本単元では、ゴールボールという子どもにはあまり馴染みのないスポーツを取り上げている。そこで今回は実際に目に障害のある方と交流し、ゴールボールを体験することで、目が見えないことへの恐怖や、それ故のスポーツをするうえでの困難さについて子ども自身が実感できる機会を設ける。これによって、教材と出会ったときに、登場人物に自己をより投影しやすくなるだろうと考える。

### ②実在する登場人物との関わり

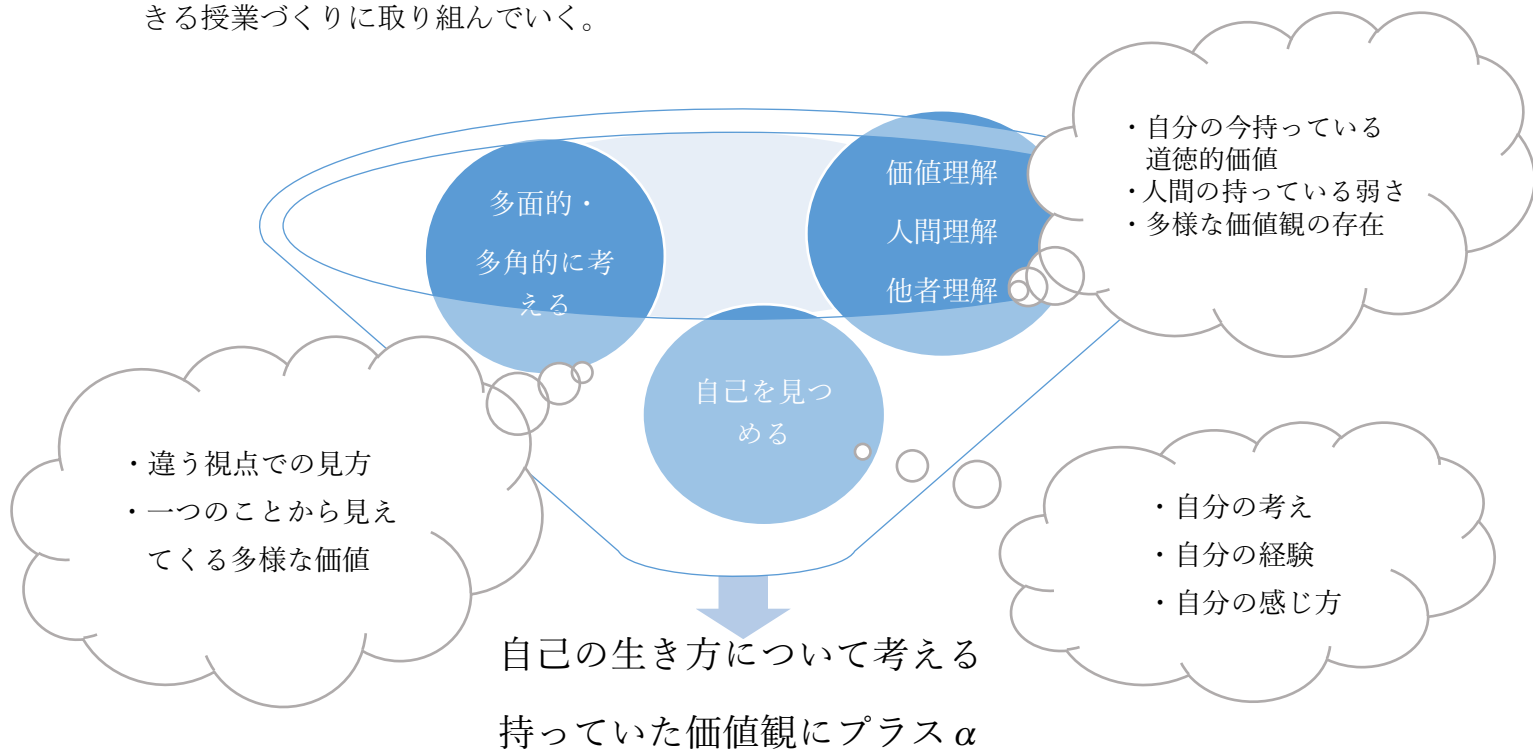
教材の中に出てくる登場人物との出会いも大切な他者との関わりになってくる。本時で扱う教材の登場人物である浦田理恵さんは実在する人物であり、今でもパラリンピックに出場し、第一線で活躍されている。偉人とは違い、子どもたちも身近に感じやすく、感心も深まりやすいと言える。

### ③ゲストティーチャーによる説話

今回は終末の場面で、教材の中の写真にも登場しているゴールボール日本代表の安達阿記子選手からのメッセージを児童に実際に見てもらおう。自分たちには考えられないような苦難を乗り越えた人物の前向きなメッセージは児童に勇気と希望を与えることができるのではないだろうか。

普段の生活の中では出会わないような他者との出会いも児童の価値観を変えていくきっかけにつながっていくものと考えよう。

以上の活動を通して、自己の生き方について考え、今までもっていた自分の価値観の更新ができる授業づくりに取り組んでいく。



段階	学習活動 (○主な発問)	予想される児童の発言	指導上留意点 (・) 評価の視点 (☆)
導入	1 今自分が持っている夢や目標について考える	夢・目標に対して ・絶対叶えたい、達成したい ・できれば・・・ ・無理そうなら諦めるかも	・今の自分がもっている夢や目標について考えさせ、それに対する今の自分の思いを見つめる。
	2 教材を知り、「ライバルは自分自身」の読み聞かせを聞く。		・事前授業で体験したゴールボールについて思い出し、主人公に自己を投影させながら聞く。 ・教材名の意味を考えながら聞けるように指導する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物 浦田理恵さん (ゴールボールの日本代表選手)</li> <li>・条件・状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師になるという夢の途中で視力を失う。</li> <li>○視力を失った直後は家から一歩も出られなくなる。</li> <li>○ゴールボールという競技に出会い、仲間と共にパラリンピックを目指す。</li> </ul> </li> </ul>		
	3 本時の課題を知る		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">浦田さんはなぜ金メダルをとることができたのだろう。</div>		
	4 学習課題について話し合う。		
	(1) 目が見えなくなり、部屋に閉じこもりながら浦田さんはどんなことを考えていたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師になりたかった</li> <li>・私の人生は終わった</li> <li>・死にたい</li> <li>・なぜ私が・・・</li> <li>・これからのことが考えられなくて怖い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物に自我関与することで、不安や悲しみに十分共感させる。</li> </ul>
(2) 浦田さんは、どんな気持ちでゴールボールの練習をしていたのだろう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナスの気持ちとプラスの気持ちのそれぞれの思いを出させ、その後、それぞれの思いの間で葛藤する気持ちを話し合わせる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>マイナスの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つらい ・できない ・もうやめたい ・別のことをやろうかな・・・</li> <li>・練習しても上手にならないのではないか</li> </ul> <p>プラスの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックに出たい ・あきらめたくない</li> <li>・自分のできることはこれしかない ・自分に負けたくない</li> </ul> </div>			
(3) 金メダルをとることができた浦田さんを支えたものは何だろう。	自分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめない心</li> <li>・自分に負けない心</li> <li>・絶対に金メダルをとりたいという強い思い</li> <li>・努力すればいつか願いは叶うという思い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループで話し合い、多面的に考えることで、ただ受け継がれているということではなく、なぜ受け継がれ、なぜその心が大切とされるのか、広い視野で見ることができるようになる。</li> <li>・最終的には自分自身の心が大切に</li> </ul>	

	5 これからの生き方について自分で考えたことを道徳ノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の支え</li> <li>・家族の支え</li> </ul>	<p>なってくることもおさえる。</p> <p>☆どんなにつらい状況にあっても、浦田さんがあきらめずに努力し続けることができたのはなぜなのか、他者との交流の中で考えを深めている。(発言・観察)</p> <p>☆目標に向かって、困難に負けず努力し続けることについて、自分との関わりで考えている。(道徳ノート)</p>
終末	6 ゲストティーチャーからのメッセージを視聴する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値に関する印象を深め、道徳的実践意欲への位置づけを図る。</li> </ul>

## 6 他の教育活動との関連

- ・運動会や音楽会などの行事を通して、最後まで諦めずにやり抜く心を養う。また、国語や社会の時間に様々な人物の生き方に触れることで、誰しもが人生の困難にぶつかり、それを乗り越える努力をしてきたことを学ぶ。

## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・どんなにつらい状況にあっても、浦田さんがあきらめずに努力し続けることができたのはなぜなのか、他者との交流の中で考えを深めている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・目標に向かって、困難に負けず努力し続けることについて、自分との関わりで考えている。

## 8 板書計画

